

ナガフトヒゲナガゾウムシを 美囊郡吉川町にて採集

(兵庫県甲虫相資料・167)

高橋寿郎

ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* (Jordan, 1895) は、アッサムの Khasi Hill から採集された 1 ♀ に基づいて記載された種 (Stett. Ent. Zeit. LVI : 268, 1895) であり、日本からの記録は森本桂博士が和歌山県大塔山系大杉産 1 ♂ を報告されたのに始まる (ESAKIA No. 14, p. 13, Photo, N; Fig. 6, C, 1984)。その後、日本各地からの報告が相次ぎ、妹尾俊男氏はそれらの総説を発表しておられる (越佐昆虫同好会会報第 57 号, p. 13-14, 1984)。1984 年に出版された原色日本甲虫図鑑 (IV) に森本桂博士は図説もしておられる (pl. 46, f. 7, p. 235)。分布は割合広いようであるが、必ずしも普通に得られる種ではないと思われる。

兵庫県下からは沢田佳久氏が、養父郡関宮町の土場の丸太から採集された 1 ♀ を報告された (昆虫と自然, Vol. 17, No. 4, p. 35, 1982)。それ以外、県下の記録は全く見られなかった。1985 年 8 月 29 日、美囊郡吉川町内で環境調査の手伝いをしていて、同行の蜂谷幸雄氏がコナラの樹から 1 ♂ を採集された。さらにいないかと調べたが、残念ながらこの 1 個体のみであった。場所は東吉川小学校の裏側 (北西) に当たり (吉川町市野瀬?)、かなり環境の良い場所である。妹尾氏によると本種の採集はほとんどが灯火採集によるものとのことであるが、兵庫県での記録は共に樹から、しかも今回は生きたコナラから採集されている。このあたり若干状況がちがっているようである。県下の 2 例のみの記録では何ともいえないが、採集地点からすると分布は広いのではないかと考えられる。ともあれ県下で 2 番目の記録として報告しておく (標本は蜂谷氏の御厚意で筆者が保管している)。

〔付記〕本誌前号 (No. 8, 9) にて報告した中で、キムネヒメコメツキモドキ *Anadast atriceps* (Crotch, 1873) の県下での記録が少ない旨を記しておいたが、本種も美囊郡吉川町の池のそばのヨシの群落を網でスィーピングするといくらでも入ってきた。時期は 9 月で、この時期に多くいるということは、本種は 5 月頃と

9月頃の2回に成虫が出現しているようである(3exs., 13-IX-1985, 15exs., 19-IX-1985)。

扇ノ山でオニクワガタの幼虫を採集

足立義弘

1985年、扇ノ山菖蒲池のブナ林内の朽ち木よりオニクワガタ *Prismognathus angularis* Waterhouse の幼虫を採集し、羽化させたので次のとおり報告しておく。

5月3日 5 larvae, 羽化成虫2♂♂1♀

5月15日 10 larvae, 羽化成虫2♂♂3♀♀

5月25日 4 larvae, 羽化成虫1♀

幼虫の体長は30mm前後、頭部の幅は5mm前後、頭部の色は赤褐色をしている。幼虫のいた朽ち木はブナの倒木で、半分ないし大部分が土に埋もれていた。朽ち木の状態は全体に湿っており、表面は黒く土状に腐朽していたが、内部は赤褐色かクリーム色で堅く、腐朽はあまり進んでいなかった。幼虫はすべて、朽ち木の堅い部分で得た。羽化した成虫は、朽ち木のフレークよりも朽ち木でそのまま飼育したほうが、大型の個体を得ることができた。



オニクワガタ終齢幼虫